

『日本の底力発揮、生き残るための基準づくり!』

～身近なところからAI、IoTの活用～

■日 時 / 2019年2月19(火) 14時00分～16時50分 (13時30分受付開始)

■会 場 / 飯田橋グラン・ブルーム 3階会議室 東京都千代田区富士見2丁目10-2

■対象業種 / 製造業全般 ■受講料 / 無料

■定 員 / 30名 (定員になり次第、締切らせていただきます)

■主 催 / 大興電子通信株式会社 ■共 催 / 株式会社経営システム研究所



■お問い合わせ先

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-19-4
 新大阪NLCビル12階
 (株)経営システム研究所 コンサルティング本部
 TEL.06-6320-1858(代)

■お申し込み方法

いずれかの方法でお申し込みください。

1. QRコード(下図)を読み取り、フォーム入力
2. ご希望セミナー、会社名、お名前を明記の上、メール
3. 下記お申し込み欄に必要事項をご記入の上、FAX

FAX
06-6320-1859

メールアドレス
info@ksk-consulting.com

ホームページ
http://www.ksk-consulting.com



■会場付近略図



東京メトロ東西線 飯田橋駅 [B2a 出口] 徒歩2分
 東京メトロ南北線 飯田橋駅 [A4 出口] 徒歩4分
 JR 総武線・中央線 飯田橋駅 [西口] 徒歩1分

■お申し込み欄 必要事項をご記入の上、切り取らずにFAXでお送りください。 ハッ!と気がつくゼミナール 84

フリガナ
会社名

フリガナ
受講者名①

フリガナ
受講者名②

部署
役職

部署
役職

メールアドレス

メールアドレス

連絡先 〒

TEL. () -

FAX. () -

[個人情報の取り扱いについて]

お申込の際に得た個人情報は弊社セミナー、サービスのご紹介、ご案内に限り利用させていただきます。それ以外の目的で利用することはありません。第三者へ個人情報を開示、提供、委託することはありません。ご提供いただいた個人情報は、安全且つ適切に管理いたします。

お申し込みありがとうございました。

■趣旨

わが国では、人口減少や少子高齢化、豊かな少数と貧しい多数（中間所得層の減少）等によって、自動車や携帯電話といった、これまで牽引役であった国内市場も、マイナス成長に陥っているため、わが国は輸出に頼らなければ成り立たなくなっています。しかし、中国や東南アジア諸国では、高いQCD競争力を持った民族系製造業が立ち上がってきております。この結果家電製品などを代表とする繰り返し量産品では、すでに日本をしのぐ製品市場が増加しており、産業用ロボットや工作機械などを代表とする個別受注製品では、手ごわい競争相手となり始めています。

今後わが国の製造は、海外の民族系企業と国内外のお客様に対して、激しい受注競争を生き残るために、新たな基準とソレを超えていく底力を発揮するために何から、どんな風に対応するのかをお話しさせていただきます。

■基調講演『競争力向上と人材創出！業務改革とIT活用の実際』

14:00~15:00

株式会社経営システム研究所 代表取締役社長 富田 茂

国際的な貿易摩擦や景気停滞が始まっています。

また、人口減少高齢化、労働力不足、原材料費と人件費の上昇等々、日本の製造業を取り巻く経営環境は、厳しさを増しています。

本セミナーでは、製造企業のQCD競争力向上と、人材創出の着眼点と進め方、並びに、その結果をしくみ化するためのIT活用について、豊富な事例を 引きながら、分かりやすく、お話しさせていただきます。

■第一部『機械メーカーが取り組むべき生産管理の基準づくり』

15:10~15:50

大興電子通信株式会社 田幸 義則

個別受注、少量多品種の機械製造メーカーは、基準となる製品仕様が曖昧なため、見積りに時間がかかり、正確な見積もりも出来ていません。結果として期待通りの利益が確保できたのかも把握できていません。今後は、熟練者の定年退職から、技術継承ができず、製造力も低下します。これからの日本では、従来の手法やマネジメント、ドンブリ勘定では、目的通りのQCD(品質・コスト・進捗)を守れなくなります。本セッションでは、機械メーカーが取り組むべき「これから作る基準作り」の準備とステップのヒントを、生産管理業務の観点から、BOM(部品表)を中心にご紹介致します。

■第二部『AI/IOTを活用した、デジタルビジネスへの転換』

15:50~16:40

大興電子通信株式会社 伊藤博之

日本流Industry4.0実現の条件がそろってきました。

IOTは実証実験フェーズから導入フェーズへ。AI(人工知能)は新たな可能性を見出す“ツール”として認識されました。製造ラインではヒトとモノ両方をIOTで見える化。すべての情報をデジタル化してAI分析による最適化や機器故障予知も可能になりました。一方社内の潮流としてデジタルビジネス化（ITを活用した競争優位性の高いビジネスモデルへの転換）により異業種も入り乱れての市場競争激化が起こります。これを製造業にとって新たなビジネスチャンスと捉え、発想の転換と備えておくことも重要です。

本セッションでは、最先端技術研究（ラボ）AI技術・新規事業開発担当者が先進事例を交えて分かりやすく解説いたします。

■アンケート&ご挨拶

16:40~16:50

※プログラムは、状況により時間が入替わり場合がございます。